現職研修委員会　社会科部報

羅針盤

２２３号
令和7年 2月17日

社会科部　情報活用委員会

「闇バイト」と社会科教育

矢作北中学校　校長　荒河　昌吾

2023 年千葉県に住む中学生の少女が SNS で闇バイトを検索し、特殊詐欺の現金を引き出す「出し子」の仕事を引き受け、窃盗容疑で逮捕されました。さらに、2024 年に入っても茨城県の男子中学生など、関東に住む少年３人が強盗予備容疑で逮捕されています。彼らも SNS などで闇バイトに応募し、犯行に及んだそうです。

このように、特殊詐欺や強盗など、犯罪の実行役として中学生が加担してしまう事案が発生しています。もはや他人事では済まされないほど子どもたちの身近に「闇バイト」は迫ってきています。このような深刻な事態の打開に向け、学校教育においても今まで以上に大きな役割が期待されているところです。

生徒指導や道徳教育、ＩＴリテラシーなどの学習情報教育からの視点や取り組みが大切なのは言うまでもありませんが、私は社会科教育の視点からも大切な役割があるのではないかと考えています。

現行の学習指導要領の小学校、中学校社会科の目標では、社会科が目指す究極のねらいにあたる文言について、小学校、中学校とも共通して「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」という文言があります。

みなさんは、普段の授業で社会科の究極の目標である「公民的資質の基礎を養う」をどのように意識して授業実践をしていますか。また、なぜ、社会科が必要なのか、あるいは社会科とは、どんな人間を育成しようとする教科なのか。私たちは、このような問いに対する答えを日々の授業を通して、子どもたちに伝えていく使命があります。

わかる、楽しい社会科の授業を目指しつつ、時には、「社会科教育の意義」とは何か、「公民的資質の育成」とはどのような力を身に着けさせることなのかという根源を問い、考えてみることが大切です。社会科の授業で身近な課題や時事的な課題、また自身の利害に関わる課題等を教材化し、子どもたちに現実社会における問題解決の場面で生きて働く知識・活動能力を身に着けさせることは、学校教育に期待される「闇バイト」対策とは無関係ではないと最近強く思っています。

令和６年度社会科研究作品展

岡崎市内の小中学校から、１５２点の作品が「りぶら」に展示されました。どの作品も、疑問に思ったことから、現地に調査へ出かけて調べたり、聞き取り調査をしたりするなど、すばらしい研究でした。また、学校代表作品として出展された全ての作品が、入選作品として表彰されました。

県教研　正会員

◆第 74 次教育研究愛知県集会

【小学校】

井田小　安原　宏紀先生
大樹寺小　星野　智史先生

【中学校】

葵　中　櫻井麻佑子先生
東海中　太田　　信先生

必見！授業技！　男川小　大屋　徳明

～「？」から「！」へ、そしてまた「？」へ～

221 号で竜海中学校の川口先生が書かれた「子供から『？』を引き出す」につなげます。「？」から始まった授業は多くの場合、授業中に「そうなんだ！」に変わります。そこで終わらず、その次にある「？」へつなげていくことができれば、子供たちが歴史のつながりを実感し、「歴史って楽しい」と思えるのではないでしょうか。

資料 蒙古襲来絵詞を読んで話し合う児童

例えば６年生の元寇の場面において、「ご恩と奉公の関係によって、鎌倉幕府はさらに力を付けたんだ！」となれば、「じゃあ鎌倉幕府は無敵だろう！」と予想します。しかし、この予想が覆る元の侵攻があり、幕府は苦戦します。自分の予想したように物事が進まない時、「なぜ？」「もっと知りたい！」と、学びに対する意欲が高まります。そこから、「鎌倉幕府は、元とどう戦ったのか？」について資料を基に明らかにしていく中で、また自分の予想が覆され、時には予想通りに展開し、新たな疑問へとつながっていく…このサイクルで授業が進んでいけば、子供の思考の流れや学ぶ意欲に沿った授業になり、結果的により深い歴史の理解にもつながります。

子供の「？」が「！」に変わり、さらに次の「でも、なんで？」につながる単元計画を立て、発問を工夫していくことで、きっと歴史が好きな子供が育ちます。何より、先生自身が歴史の授業をもっと好きになることができます。子供たちが目を輝かせる授業風景を思い浮かべながら、ぜひチャレンジしてみて下さい。

発見！一押し地域教材！　河合中　向　孝太

秦梨学区にお店を復活させるために

★単元

〇中学３年生　単元「消費生活と市場経済」

★この教材を使い、工夫した点

<u>① 学区の総代会長さんに学区の現状を話していただく</u>

総代会長さんに学区の現状をお話していただく機会を設けました。少子高齢化やインフラ整備、後継者不足など多くの課題が現状あることを話していただきました。その中で、総代会長さんの学区に対する思いにも触れることができました。様々な課題がある中で、どのような視点でこの問題と向き合い、自分たちには何ができるのかを考えるきっかけとなる時間になりました。

資料　総代会長さんのお話の様子

<u>② 秦梨学区にお店を誘致するためにはどうしたらよいかを議論する</u>

現在、秦梨学区にはお店がありません。そこで、お店を復活させるならどのようなお店がよいか議論しました。その際に、流通の合理化の視点も入れるようにしました。その中で、スーパーマーケットを選択した生徒は、直接仕入れや一括仕入れの視点から意見を述べていました。また、コンビニを選んだ生徒はもともとお店があったところの再利用や「POS システム」の利用など合理的な視点から理由を述べていました。議論を重ねる中で、学区の農家さんと提携をした商品の販売、学区の名物であるホタルとのコラボ商品の開発など河合学区の現状を踏まえたアイデアを生みだすことができました。今回の授業を通して、自分たちが住む学区の現状を知り、自分たちの郷土を自分たちが維持・発展させていかなければという思いも育むことができました。